

最先端の牛放牧技術学ぶ

ICT活用 熊本市で研修会



ICTやAIなどを活用した最先端の放牧技術が紹介された放牧技術研修会

ICT（情報通信技術）を活用した最先端の牛の放牧技術を学ぶ研修会が9日、熊本市内で開かれた。九州農政局などの主催。九州各地をはじめ、北海道や沖縄など全国の研究機関、畜産関係団体などから約100人が参加した。

熊本市農業研究センターの津田健一郎・研究主任は、牛にGPS（全球測位システム）を内蔵した首輪を装着し、牛の行動量と発情行動をAI（人工知能）に学習させる研究を紹介した。

航空・宇宙関連の研究開発企業「M・S・K」（埼玉県）の水野尚淑社長は、GPSで牛の行動パターンを分析するシステムの研究を解説し、「病気の有無や牧草の好みなどを把握できるようにする」とした。

参加者からの質疑応答もあり、九州農政局

の伊藤寿・畜産課長は「ICTを組み合わせることによって業務を省力化し、高収益が図りたい」と話した。【山本泰久】

講演の様子

